

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

第15回学術教育セミナー

プログラム・抄録集

開催日 2025年10月12日(日)

開催方式 ハイブリッド方式

会場聴講 & リアルタイム配信: 2025年10月12日(日)

録画配信: 2025年10月16日(木) ~
1ヶ月配信(予定)

会場 鹿児島県歯科医師会

主催 一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理事長 石垣 佳希 (日本歯科大学附属病院総合診療科 教授
スペシャルニーズ歯科センター長)

委員長 矢郷 香 (国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 教授)

代表世話人 西條 英人 (鹿児島大学医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座
口腔顎顔面外科学分野 教授)

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115-0055 東京都北区赤羽西6-31-5 (株)学術社内

TEL: 03-5924-3621 FAX: 03-5924-4388

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会
第15回学術教育セミナー

【メインテーマ】

総合歯科専門医（仮称）を目指した有病者歯科治療

PROGRAM

開会のご挨拶

理事長 石垣 佳希 ……（5）

学術研修委員会委員長 矢郷 香 ……（6）

代表世話人・学術研修委員会委員 西條 英人 ……（7）

【午前の部】

10:10 ~ 11:00

1. 「睡眠と睡眠時無呼吸の心血管リスク」 ……（8）

講師：虎の門病院睡眠呼吸器科 医長 富田 康弘 先生

座長：国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 教授 矢郷 香 先生

11:05 ~ 11:55

2. 「糖尿病に関する最新のトピックスと歯科との連携の重要性」 ……（10）

講師：東京女子医科大学病院糖尿病センター内科学講座

糖尿病・代謝内科学分野 客員教授 馬場園哲也 先生

座長：東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学講座 教授 岡本 俊宏 先生

【休 憩 11:55~12:05】

12:05 ~ 12:55

3. 「障害特性に配慮した歯科的対応と口腔衛生管理の実践」 ……（12）

講師：神奈川歯科大学全身管理歯科学講座障害者歯科学分野 教授 小松 知子 先生

座長：がん・感染症センター都立駒込病院歯科口腔外科 医長 山内 智博 先生

【昼休憩 12:55 ~ 13:35】

PROGRAM

[午後の部]

13:35 ~ 14:25

4. 「認知症と嚥下機能の評価・リハビリテーション」 (14)

講師：陵北病院歯科診療 部長 大野 友久 先生

座長：国際医療福祉大学病院口腔外科 教授 岩渕 博史 先生

14:30 ~ 15:20

5. 「歯科診療時の緊急対応」 (16)

講師：鹿児島大学病院救命救急センター 准教授

救命救急センター長 新山 修平 先生

座長：鹿児島大学医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座 教授 西條 英人 先生

【休 憩 15:20 ~ 15:30】

15:30 ~ 16:20

6. 「ここが変わった！抗菌薬の適正使用 2025」 (18)

講師：日本歯科大学附属病院口腔外科 教授 松野 智宣 先生

座長：国際医療福祉大学病院口腔外科 教授 岩渕 博史 先生

16:20 ~

閉会のご挨拶

代表世話人・学術研修委員会委員 西條 英人

受講について

この度は日本有病者歯科医療学会「第15回学術教育セミナー」をご受講いただきありがとうございます。
ございます。下記、手順に従ってご受講ください。

○ ハイブリッド方式

会場聴講 & リアルタイム配信：2025 年 10 月 12 日 (日) 9:40 開講 16:30 終了予定
録画配信：2025 年 10 月 16 日 (木) ～ 1 ヶ月配信 (予定)

○ ログインパスワード 別途ご登録メールアドレスへお知らせいたします

■ ログイン・視聴方法

1. 入金確認メールに記載された URL より視聴ページのログイン画面に接続が可能です。
入金確認メール件名：「【入金確認】一般社団法人 日本有病者歯科医療学会 第13回学術教育
セミナー 視聴ページのご案内」
2. 入金確認メールに記載されているログイン ID とパスワードをご入力いただき、「送信」を
クリックして視聴ページへお入りください。
3. 【リアルタイム配信】 視聴ページ内にある【リアルタイム配信を受講する】ボタンより、
Zoom にて WEB セミナーを受講いただけます。

【オンデマンド配信】 配信ページの各プログラムをクリックすると配信が始まります。
各プログラムは独立しておりますので個別に視聴することが可能です。
また、期間内であれば繰り返し視聴することも可能です。

■ 参加証（会場聴講用）について

会場聴講については、参加証が必要です。
ご登録のメールアドレスに、会場案内等と共に、お送りいたします。

■ 領収証について

領収書は金融機関の振込明細をもって代えさせていただきます。

■ 修了証について

修了証はリアルタイム配信の視聴時間または録画配信の視聴時間の集計を行い、発行致します。

■ ご注意

1. 配信期間以外は視聴できません。期間内に受講を終了するようにご計画ください。
2. 必ずお知らせしたパスワードでログインし、登録者以外の方がご使用にならないようご注意ください。
3. 通信環境、使用される機器の不具合等による視聴不能については責任を負いかねます。
4. 映像、講演内容、使用されている画像・図表等には著作権が存在します。無断複製、転載、
改変、配布、販売を固く禁じます。
5. その他、第15回学術教育セミナー配信ページの注意事項をお読みの上ご受講ください。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理事長 石垣 佳希

(日本歯科大学附属病院総合診療科 教授
スペシャルニーズ歯科センター長)



本学会の主要な企画の1つであります学術教育セミナーも回を重ねて第15回となりました。今年は2025年10月12日(日)に現地開催およびリアルタイム配信、そして2024年10月16日(木)から1か月間の録画配信の予定でハイブリッド開催となります。ハイブリッド開催はコロナ禍における感染対策の一環でしたが、1人でも多くの会員に受講していただきたいという思いから今後もこの形式で開催する予定です。

そしてこれまでは東京都内を会場としておりましたが、我々の活動を全国に知っていただくために初めて東京を離れての開催となりました。ご尽力いただきました委員長の矢郷 香先生、代表世話人の西條英人先生はじめ委員の皆様には感謝申し上げますとともに今後も日本各地で開催したいと考えております。

さて、今回は「総合歯科専門医(仮称)を目指した有病者歯科治療」をメインテーマとし、内容は「睡眠と睡眠時無呼吸の心血管リスク」を虎の門病院睡眠呼吸器科医長の富田康弘先生、「糖尿病に関する最新のトピックスと歯科との連携の重要性」を東京女子医科大学病院糖尿病センター客員教授の馬場園哲也先生、「障害特性に配慮した歯科対応と口腔衛生管理の実践」を(公社)日本障害者歯科学会副理事長で神奈川歯科大学全身管理歯科学講座教授の小松知子先生、「認知症と嚥下機能の評価・リハビリテーション」を陵北病院歯科診療部長の大野友久先生、「歯科診療時の緊急対応」を鹿児島大学病院救命救急センター准教授/センター長の新山修平先生、「ここが変わった! 抗菌薬の適正使用 2025」を日本歯科薬物療法学会前理事長で日本歯科大学附属病院口腔外科教授の松野智宣先生と今回も各講演内容の権威であります先生方にご講演をお願いいたしました。

今回のメインテーマにもございます「総合歯科専門医(仮称)」は現在(公社)日本障害者歯科学会、(一社)日本老年歯科医学会と共同で制度設計を進めている専門医制度です。今回は両学会員の方々にも本学会員価格で受講いただくことといたしました。今後は両学会とともにさまざまなイベントを企画してまいります。

最後に今回の学術教育セミナーの内容が、受講される皆様にとって今後の臨床の一助になることを確信しつつ、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会
学術研修委員会委員長 矢 郷 香
(国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 教授)



第15回学術教育セミナーを2025年10月12日(日)に開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。今回も前年度と同様に、会場での聴講(定員制・先着順)とWeb配信(リアルタイムおよびオンデマンド)のハイブリッド形式で開催いたします。15回を重ねて初めて会場は鹿児島県歯科医師会館と地方開催になります。

石垣佳希理事長は、特に注力したい事業の一つとして「地域活性化に向けた支部の設置」を掲げています。そこで、地域との連携を強化するためにも本セミナーを鹿児島で開催し、九州・沖縄地区の多くの皆様に会場で直接聴講できる機会を設けたいと思いました。もちろん、10月16日(木)より約1か月間配信予定ですので、当日参加できない方も全地域から聴講可能です。

代表世話人は、鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科先進治療科学専攻顎顔面機能再建学講座 口腔顎顔面外科学分野教授の西條 英人先生にお願いし、テーマは「総合歯科専門医(仮称)を目指した有病者歯科治療」です。現在、(一社)日本有病者歯科医療学会、(一社)日本老年歯科医学会、(公社)日本障害者歯科学会の3学会で日本歯科専門医機構認定の「総合歯科専門医(仮称)」の取得を目指し会議が開催されています。研修カリキュラムには当然、老年歯科、障害者歯科についての研修も必須となります。そのため、全身疾患や障害を有する患者、高齢者への歯科的アプローチについて多角的に取り上げ、専門的かつ実践的な知識の習得を図ることができるようにと、以下の6つの講演を企画致しました。①「睡眠と睡眠時無呼吸の心血管リスク」では、睡眠障害が全身疾患、特に高血圧や心血管疾患の発症・増悪に与える影響。②「糖尿病に関する最新のトピックスと歯科との連携の重要性」では、糖尿病と歯周病の双方向性の関係を基盤に医科歯科連携について③「障害特性に配慮した歯科的対応と口腔衛生管理の実践」④「認知症と嚥下機能の評価・リハビリテーション」⑤「歯科診療時の緊急対応」では、全身状態の把握とともに、診療中に起こり得る急変への対応。最後に、⑥「ここが変わった!抗菌薬の適正使用2025」では、近年の耐性菌問題を踏まえた抗菌薬の選択・投与法についてのアップデートです。今回も素晴らしい講師の先生方に講演を賜ることができました。本セミナーが有意義な学びの場となることを確信しております。

最後に、第15回日本有病者歯科医療学会学術教育セミナーの円滑な開催にあたり、代表世話人の西條英人先生、講師の皆さまはじめ、多くの関係者の皆さまのご協力とご尽力に深く感謝いたします。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

代表世話人・学術研修委員会委員 **西 條 英 人**

(鹿児島大学医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座
口腔顎顔面外科学分野 教授)



2025年10月12日(日)に開催される第15回日本有病者歯科医療学会学術教育セミナーの世話人を務めさせていただきます。鹿児島大学口腔顎顔面外科学の西條英人でございます。本セミナーは今回で15回目を迎えますが、初めて東京以外での開催となります。本学会の会員数は年々増加しており、特に九州地区の先生方に本学会の活動をより深く認識していただくことを期待し、このたび鹿児島市での開催を企画いたしました。

今回のメインテーマは「総合歯科専門医(仮称)を目指した有病者歯科治療」でございます。現在、日本有病者歯科医療学会、日本障害者歯科学会、日本老年歯科医学会の3学会が、日本歯科専門医機構における専門医制度の標榜に向けて調整を進めております。本セミナーは、将来的な総合歯科専門医の制度を見据えた内容となっておりますが、幅広い分野に及ぶため、多彩な演題を準備いたしました。

まず、近年注目される睡眠に関しては、虎の門病院睡眠呼吸器科医長の富田康弘先生に「睡眠と睡眠時無呼吸の心血管リスク」についてご講演いただきます。続いて、糖尿病と歯科の関わりについて、東京女子医科大学病院糖尿病センターの馬場園哲也先生に「糖尿病に関する最新のトピックスと歯科との連携の重要性」をご講演いただきます。障害者歯科分野からは、神奈川歯科大学障害者歯科学分野の小松知子先生に、老年歯科分野からは陵北病院歯科の大野友久先生に「認知症と嚥下機能の評価・リハビリテーション」についてご講演いただきます。さらに、鹿児島大学救命救急センターの新山修平先生に「歯科診療時の緊急対応」についてご講演いただき、日常臨床における救急対応の知識を最新の内容にアップデートしていただける機会といたしました。最後に、日本歯科大学附属病院口腔外科の松野智宣先生に「ここが変わった!抗菌薬の適正使用2025」についてご講演いただきます。

以上のように、各講演は専門分野ごとに特化した内容ではありますが、いずれも歯科医療を行う上で極めて重要な知識を提供いただけるものと確信しております。なお、本セミナーでは、将来の総合歯科専門医(仮称)制度を見据え、日本老年歯科医学会会員、ならびに日本障害者歯科学会会員の先生方にも会員価格でご参加いただけるようにいたしました。また、鹿児島市での開催のため、観光を兼ねてご来場いただくことも可能であり、加えてWEB開催も行いますので、お時間に合わせて柔軟にご聴講いただけます。

最後に、本セミナーの開催にあたりご尽力いただきました石垣佳希理事長、矢郷香学術委員長をはじめ、委員会の先生方ならびに関係各位、そして講演を快諾くださいました講師の先生方に、心より厚く御礼申し上げます。

睡眠と睡眠時無呼吸の 心血管リスク



虎の門病院睡眠呼吸器科 医長 富田 康弘

健康管理と言えば食事と運動が注目されるが、睡眠も同様に重要な生活習慣の要素である。日本人は世界的にも睡眠時間が短く、これが生活習慣病や心血管疾患リスク上昇と関連している。健康のためには年齢に応じた睡眠時間を規則正しく確保することが大切である。良質な睡眠には十分な量の確保と質の向上が必要である。睡眠に悪影響を与える習慣を理解し、日中の生活習慣を見直すことで休養感のある睡眠が得られる。適切な知識を持ち、生活改善しても睡眠による休養感が得られないときには睡眠関連疾患の可能性が疑われる。

歯科領域で関わる重要な睡眠関連疾患には睡眠ブラキシズムと睡眠関連呼吸障害がある。特に睡眠関連呼吸障害の中でも閉塞性睡眠時無呼吸（OSA）に対しては、歯科医が作製する口腔内装置（OA）が有効な治療法となる。OSAは睡眠中に上気道が閉塞して無呼吸を繰り返す疾患で、本人は自覚しにくく周囲からいびきや呼吸停止を指摘されることが多い。無呼吸により睡眠の質が低下するため、十分な睡眠時間があっても日中の強い眠気を感じることからOSAが疑われることもある。眠気への自覚が乏しくても事故リスクが高まることも知られており、社会的にも重要な疾患である。また、OSAは動脈硬化の進展などを介して、高血圧などの生活習慣病を合併しやすく、長期的には心血管疾患発症リスクを高める。

重症OSAの確実な治療は医科が行う持続陽圧呼吸療法（CPAP）であるが、歯科が提供するOA治療は軽症OSAやCPAP継続困難例に適しており、自覚症状を改善する効果、血圧を低下させる効果はCPAPと同等に有効である。歯科治療では医科との連携が重要であり、医科での検査結果に基づき、医科からの指示で歯科がOAを作製する場合に保険適用となる。OA作製だけでなく、治療効果判定のための検査を医科に依頼し、そのフィードバックを受ける流れを円滑に進める環境が望ましい。検査結果だけでなく自覚症状や合併症のコントロール状況についても医科との間で情報共有できることで、より効果的な治療が提供できると期待できる。とくにCPAP継続困難例ではOA治療も難しい場合があり、睡眠習慣を含めた生活全般の聞き取りと情報共有が重要である。歯科はOSA診療において大きな役割を担っており、このようなセミナーを通じてOSA治療における歯科の重要性が全国に広まることを願う。

Profile

富田 康弘（とみた やすひろ）

[学 歴]

2000 年 3 月 麻布学園高等学校卒業
2001 年 4 月 東京大学理科三類入学
2003 年 4 月 東京大学医学部進学
2007 年 4 月 同上卒業
2015 年 4 月 順天堂大学大学院医学研究科（心血管睡眠呼吸医学）入学
2019 年 3 月 同上修了

[職 歴]

2007 年 4 月 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 前期レジデント
2009 年 4 月 同上 後期レジデント
2012 年 4 月 同上 循環器センター内科医員（睡眠センタースタッフ兼任）
2020 年 3 月 同上 高齢者総合診療部兼任
2020 年 4 月 同上 睡眠呼吸器科医長
東京大学大学院医学系研究科（システムズ薬理学）特任助教
順天堂大学医学部内科学教室・循環器内科学講座 非常勤助教

[資 格]

日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本循環器学会 認定循環器専門医・指導医
日本睡眠学会 総合専門医・指導医・評議員
日本老年医学会 認定老年科専門医
日本遠隔医療学会 幹事会員
米国 BRPT 認定睡眠検査技師（RPSGT）
世界睡眠学会（WSS）認定 International Sleep Specialist

[所属学会]

日本内科学会	日本循環器学会	日本心臓病学会	日本心不全学会
日本老年医学会	日本睡眠学会	日本睡眠臨床医学会	日本睡眠検査学会
日本遠隔医療学会	日本栄養治療学会	アメリカ睡眠学会（AASM）	
世界睡眠学会（WSS）			

糖尿病に関する最新のトピックスと 歯科との連携の重要性



東京女子医科大学病院糖尿病センター内科学講座
糖尿病・代謝内科学分野 客員教授

馬場 園 哲 也

糖尿病は単なる高血糖状態ではなく、全身合併症や併発症を伴う慢性疾患であり、歯科を含めた他の医療との連携が極めて重要となっている。本講演の前半では、糖尿病に関する最新の知見を紹介し、後半では、糖尿病専門医と歯科医の連携の意義と具体的な取り組みを提言したい。

糖尿病の合併症は、細小血管障害（網膜症、腎症、神経障害）および大血管障害（虚血性心疾患、脳梗塞、末梢動脈疾患）に大別されるが、近年ではそれらに加えて心不全、認知症、骨粗鬆症、歯周病なども糖尿病と密接に関連する“併発症”として注目されている。糖尿病は、全身の炎症・血管障害を通じて、さまざまな臓器の機能低下を引き起こす全身疾患であることが再認識されつつある。糖尿病治療薬はこの数年で大きく進歩し、単なる血糖コントロール効果にとどまらず、腎症や心不全、動脈硬化性疾患の予防・改善効果をもつ薬剤が登場している。とくに SGLT2 阻害薬や GLP-1 受容体作動薬は、心血管・腎イベント抑制効果が証明され、糖尿病合併症予防において重要な位置を占めるに至っている。こうした“臓器保護型薬剤”の登場は、糖尿病治療のパラダイムシフトをもたらしている。

糖尿病患者における歯周病の有病率は極めて高く、Zheng らによるメタ解析では約 67.8%と報告されており、非糖尿病患者の 35.5%に比して有意に高率である（Acta Diabetol, 2021）。また、重度歯周炎は血糖コントロールの悪化と関連し、全身炎症や血管障害を介して他の合併症発症に寄与することが示されている。このような、糖尿病と歯周病の双方向性の関連から、Löe らは歯周病を糖尿病の 6 番目の合併症と位置付けている（Diabetes Care, 1993）。歯科との連携については、2023 年に日本歯周病学会より刊行された「糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン 第 3 版」が重要な指針となる。本ガイドラインでは、歯周治療による HbA1c 改善効果や、良好な血糖コントロールが歯周炎進行を抑制する双方向性が明示された。加えて「鹿児島県医科歯科医療連携マニュアル」では歯科から発信する糖尿病医科歯科連携ツールが作成されている。

以上を踏まえ、糖尿病医療における歯科の役割は今後ますます重要となる。歯周病患者に対する糖尿病の既往に関する問診により、歯科医院が「糖尿病早期発見の窓口」となるための役割を果たしていただきたいと考える。さらには糖尿病専門医との相互紹介体制の構築、診療情報の共有、地域医療連携会議の活用などが挙げられる。今後、糖尿病と歯周病の包括的管理には、医科と歯科の連携が不可欠であることを強調したい。

Profile

馬場園 哲也（ばばその てつや）

[学歴・職歴]

1983 年 3 月 広島大学医学部医学科 卒業
1983 年 5 月 東京女子医科大学 内科学（第三）講座
（糖尿病センター内科，平田幸正主任教授）入局
1985 年 9 月～1986 年 3 月
東京女子医科大学 腎臓病総合医療センター（杉野信博 主任教授，太田和夫 主任教授）において腎臓内科学一般および末期腎不全治療（血液透析，腹膜透析，腎移植）に関する研修
1988 年 1 月 東京女子医科大学内科学（第三）講座 助手
1995 年 7 月～1997 年 12 月
Post-doctoral research fellow, Clinical Science Division, University of Toronto (Prof. Catharine Whiteside), Division of Nephrology, Toronto Western Hospital (Prof. Dimitrios G Oreopoulos), Toronto, Canada
2000 年 4 月 東京女子医科大学 内科学（第三）講座 講師
2014 年 4 月 同 准教授
2017 年 4 月 同 教授・講座主任
2018 年 10 月 東京女子医科大学 糖尿病・代謝内科学講座（講座名変更）教授・講座主任
2021 年 4 月 東京女子医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野（講座より分野に変更）教授・基幹分野長
2024 年 3 月 同 定年退職
2024 年 4 月 医療法人社団 石川記念会 顧問
2025 年 4 月 東京女子医科大学 客員教授

[主な役職，資格等]

日本内科学会	認定内科医
日本糖尿病学会	関東甲信越支部学術評議員，膵・膵島移植に関する常置委員会委員，糖尿病専門医，指導医
日本糖尿病合併症学会	評議員
日本腎臓学会	功労評議員
日本透析医学会	血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ委員 副グループ長
日本腹膜透析医学会	倫理委員会委員
日本膵・膵島移植学会	理事，膵島移植適応検討委員会委員
日本糖尿病性腎症研究会	世話人
日本糖尿病協会	倫理委員会委員長
その他	東京地方裁判所専門委員

障害特性に配慮した 歯科的対応と口腔衛生管理の実践



神奈川歯科大学全身管理歯科学講座障害者歯科学分野 教授 小松 知子

近年、様々な疾患に対する治療技術の進歩に加え、医療的ケア、教育、コミュニティ支援、家族支援の充実により、障害のある方の平均寿命は延伸し、障害の様態も多様化しています。超高齢社会を迎えた現在、障害の有無にかかわらず、すべての人が生涯を通じて健康的に暮らすためには、住み慣れた、あるいは住みたい地域のコミュニティの中で有意義な時間を過ごし、身体的に活発な活動を継続することが重要です。

その実現において、歯科医療は大きな役割を担います。早期からの歯科疾患の予防や、摂食嚥下機能の獲得支援は、予防的ヘルスケアの観点から非常に重要です。医科においては、小児期から慢性疾患のある患者の「移行期医療」が課題とされていますが、歯科は乳幼児期から生涯にわたり、口腔の健康を一貫して支えることが可能です。

地域の歯科医師が障害のあるお子さんに早期から関わり、口腔機能や摂食嚥下機能の発達を支援しながら継続的に健康管理を行うことで、歯科疾患の予防とともに、健康寿命の延伸にも寄与できます。また、歯科医療従事者が患者・家族と共に課題に気づき、解決に向かって歩むことのできる環境づくりも重要です。

このような実践において大切なことは、診療時において患者やご家族から十分な情報を聴取し、障害の特性を理解したうえで、合理的配慮や特別な対応を行うことです。これにより良好なラポールが築かれ、継続的な受診にもつながります。治療が必要となった場合には、患者本人の意思を尊重し、ご家族と十分に相談のうえで治療方針を決定し、適切な時期に適切な歯科医療を提供できる体制を整えることも重要です。とくに、通法での対応が困難な場合には、薬物的行動調整が可能な口腔保健センターや大学病院などとの連携体制の構築が求められます。これらの役割を相互に補完し合いながら地域で連携できる体制の整備は、地域格差という課題を抱えつつも、円滑かつ公平な障害者歯科医療の提供を実現するために不可欠と考えます。

本講演では、障害のある患者が安心して歯科を受診できるようにするために必要な合理的配慮や特別な配慮に基づく歯科的対応、および口腔衛生管理の実践についてお話しします。日常の臨床において、少しでもお役に立てれば幸いです。

Profile

小松 知子（こまつともこ）

[学 位]

歯学博士 授与大学（神奈川歯科大学）

[学 歴]

昭和 60 年 4 月～平成 3 年 3 月
神奈川歯科大学歯学部

[職 歴]

平成20年 7 月～平成22年 6 月 ポストン大学歯周病・生物学講座に長期派遣研究員
令和 3 年 4 月～令和 4 年 7 月 神奈川歯科大学 全身管理歯科学講座
障害者歯科学分野 准教授・分野長
令和 4 年 8 月～現在に至る 神奈川歯科大学 全身管理歯科学講座 障害者歯科学分野 教授
令和 5 年 4 月～現在に至る 神奈川歯科大学附属病院副病院長
令和 6 年 4 月～現在に至る 神奈川歯科大学臨床科学系 副学系長

[社会活動：代表的所属学会 / 役職等]

日本障害者歯科学会 副理事長
日本老年歯科医学会 代議員
日本ダウン症学会 理事
日本障害者歯科学会 専門医指導医
日本老年歯科医学会 専門医指導医

認知症と嚥下機能の 評価・リハビリテーション



陵北病院歯科診療 部長 大野 友久

高齢社会が進展とともに、歯科医療においても高齢者への対応の必要度が増してきている。認知症患者も増加すると予測されており、歯科で対応する頻度がますます増加するであろう。認知症患者は有病者であり、また様々な他疾患を合併していることが多いので、本学会にとっても把握しておくべき重要な疾患である。

認知症とは、一度正常に発達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態、であり、いくつかの要因により発症する基本的に進行性の疾患である。代表的な原因疾患はアルツハイマー型認知症であり罹患者数が最も多い。認知症の原因物質や病態、症状はある程度わかっているものの、実質的に有効な治療方法はない。高額なことで近年話題のレカネマブとて進行を少し遅らせる程度であり治癒するわけではない。認知症による認知機能の低下は、身体症状だけでなく認知症の行動・心理症状（Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia）など様々な問題や症状を引き起こす。現状ではそれらについてのサポートやケアを行うことが関わり方の主体となっている。

歯科も同様にサポートやケアといった視点での関わりが必要であるが、決して保存的な対応に終始すべき、という意味ではない。アルツハイマー型認知症の場合は、初期から中期は健常者と変わらず歯科による口腔健康管理が可能であることが多い。むしろこの時期からの継続的な歯科介入こそ必要である。いずれ至る認知症の終末期に、劣悪な口腔内状況に陥らないように、地域の歯科診療所と病院歯科などが連携して対応していくことが望ましい。また、地域の歯科診療所等が認知症症状に早期に気づく可能性があり、デリケートな問題ではあるが、認知症の専門家につなげる観点も重要である。

また口腔健康管理だけでなく、認知症患者の食支援、摂食嚥下リハビリテーション（以下、リハビリ）も今後重要度が増してくるものと思われる。アルツハイマー型認知症の患者において、摂食嚥下障害が生じてくるのは終末期に近い段階である。レビー小体型認知症の場合は比較的早期に摂食嚥下障害が出現しやすいと言われている。いずれにせよ医療者の指示が入りにくい状況なので、リハビリを行うというよりは食形態や体位調整などの代償法が中心となるが、いくつかの対応方法もあるので今回はそれらを紹介する予定である。

Profile

大野 友久（おおの ともひさ）

[略 歴]

- 1998 年 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 2001 年 聖隷三方原病院歯科
- 2002 年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科卒業
- 2015 年 国立長寿医療研究センター歯科口腔外科
- 2019 年 浜松市リハビリテーション病院歯科
- 2024 年 陵北病院歯科診療部

[社会活動等]

日本老年歯科医学会 理事・代議員・指導医・専門医・認定医・摂食機能療法専門歯科医師

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員・認定士

歯学博士

歯科診療時の緊急対応



鹿児島大学病院救命救急センター 准教授
救命救急センター長

新 山 修 平

今回の学術教育セミナーのテーマは「総合歯科専門医（仮称）を目指した有病者歯科治療」です。将来の日本専門医機構専門医にむけた専門医カリキュラムには、急変時対応として、①歯科における偶発症への対応（迷走神経反射、過換気、ショックなど）、②緊急時の対応（緊急時の全身の評価、病態の説明、救急処置法）が挙げられているとお聞きしております。有病者への対応力の強化と医療安全の確保が重視されており、専門医に求められる不可欠な資質になっていると拝察します。

本講演では、厚生労働省委託事業「歯科保健医療情報収集等事業」歯科治療時の局所的・全身的偶発症に関する標準的な予防策と緊急対応のための指針、或いはDCLSやBLS/ACLSを中心に、医科的知識を歯科医療に応用する方法について紹介します。具体的には、急変時における一次評価（ABCDEアプローチ）や情報伝達（I-SBARC活用）など、医科現場で培われた体系的な対応手順を取り入れ、歯科医療従事者が有病者に安心・安全な治療を提供するために必要な対応力を多角的に検討する内容です。

急性症状は突発的に起こるものですが、事前の準備と訓練により、適切な初期対応と多職種連携が可能となります。本講演を通じて、医科歯科連携の重要性を再確認するとともに、有病者歯科治療における医療安全向上に資する知識と視点の共有を図りたいと考えています。

Profile

新山 修平 (にいやま しゅうへい)

[学職歴]

1993 年 3 月	久留米大学医学部 卒業
1993 年 5 月	久留米大学病院 麻酔科勤務
1999 年 4 月	久留米大学大学院医学研究科入学
2003 年 3 月	同 終了
2003 年 6 月	米国 UMDNJ に留学
2004 年 7 月	久留米大学医学部 講師
2008 年 4 月	久留米大学病院, 高度救命救急センター兼務 (三年間)
2012 年 11 月	久留米大学医学部 准教授
2014 年 4 月	久留米大学病院 外科系集中治療部主任
2015 年 12 月	久留米大学病院 医療安全管理部副部長兼務
2018 年 7 月	鹿児島大学病院 集中治療部講師
2020 年 1 月	鹿児島大学病院 救命救急センター 准教授
2020 年 4 月	鹿児島大学病院 救命救急センター 副センター長／准教授
2025 年 4 月	鹿児島大学病院 救命救急センター センター長／准教授 現在に至る

[専門医等]

- 学位 (医学博士)
- 厚生労働省麻酔科標榜医
- 日本専門医機構認定救急科専門医・日本救急医学会指導医
- 日本専門医機構認定麻酔科専門医・日本麻酔科学会指導医
- 日本集中治療医学会専門医・評議員
- 日本ペインクリニック学会専門医
- 日本 DMAT 隊員 (統括 DMAT 登録者)
- 都道府県災害医療コーディネーター
- 医療安全管理者
- インфекションコントロールドクター (ICD) 認定医 (日本救急医学会所属)

ここが変わった！ 抗菌薬の適正使用 2025 『抗微生物薬適正使用の手引き 第四版 歯科領域編』について



日本歯科大学附属病院口腔外科 教授 松野 智 宣

2025 年 9 月に厚生労働省から発出された『抗微生物薬適正使用の手引き』の第四版に歯科領域編が新たに加わった。これまでの三版は、医科一般外来および入院編として医療従事者や患者がその対象であったが、この第四版では歯科診療所の勤務医をおもな対象とした歯科領域編が追加され、歯科における抗菌薬の適正使用（Antimicrobial stewardship: AMS）をはじめとする薬剤耐性（Antimicrobial resistance: AMR）対策が 30 ページ超にわたり分かりやすくまとめられた。そこで、今回の学術教育セミナーでは、その内容を中心にわが国の AMR の現状も踏まえ、アップデートされた歯科における AMS について学ぶ。

令和 5 年 4 月、厚労省は新たな AMR 対策アクションプラン（2023-2027）を発出した。この成果目標の一つに、「2027 年までに人口千人あたりの一日抗菌薬使用量を 2020 年の水準から 15% 減少させる」ことが掲げられた。これに伴い、2020 年比で第三世代セファロスポリン系薬は 40% 減、フルオロキノロン系薬は 30% 減、マクロライド系薬は 25% 減が求められた。

このような AMR 対策の成果目標を歯科においても達成するため、大学附属病院などの歯科・口腔外科では、抜歯をはじめとする口腔外科手術やインプラント埋入後等の手術部位感染（Surgical site infection: SSI）、あるいは術後合併症の予防抗菌薬、さらに菌性感染症の治療薬が従来の第三世代セファロスポリン系薬からペニシリン系薬へと移行し、90% 以上がアモキシシリンを第一選択するようになった。

一方、歯科において経口抗菌薬の処方の大部分を占める一般歯科診療所では、未だ約 50% が第三世代セファロスポリン系薬を第一選択されている現状がある。そのような抗菌薬の不適正使用を是正し、歯科からの AMR 対策をより推進していくために、『抗微生物薬適正使用の手引き』第四版に歯科領域編が追加となった。

その主な内容は、以下の通りである。

- ・総 論：歯科における抗菌薬処方の現状
- ・各 論：AWaRe 分類と抜歯・インプラント埋入時の SSI 予防や IE 予防のための抗菌薬投与と菌性感染症への治療的投与
- ・その他：腎機能低下者やペニシリンアレルギー疑いの患者への対応、抗菌薬の流通状況を踏まえた処方

特に、これまでの SSI 予防のための術前単回投与量や菌性感染症治療のための投与内容がこれまでのガイドラインからアップデートされているので、ご注目いただきたい。

Profile

松野 智宣（まつの ともりのり）

[略 歴]

- 1987 年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- 1992 年 日本歯科大学大学院卒業 博士（歯学）
- 2002 年 京都大学再生医科学研究所 国内留学
- 2003 年 日本歯科大学歯学部 口腔外科学講座 助教授
- 2019 年 日本歯科大学生命歯学部 口腔外科学講座 教授
- 2020 年 日本歯科大学附属病院口腔外科 教授, 副院長

[学会活動]

- 日本歯科医学会 理事
- 日本口腔外科学会 専門医・指導医・代議員
- 日本歯科薬物療法学会 副理事長・専門医・指導医
- 日本口腔インプラント学会 代議員
- 厚生労働省医薬品第一部会 委員
- 厚生科学審議会感染症部会 AMR に関する小委員会 AMS 等に関する作業部会 委員
ICD（Infection Control Doctor）
- 日本口腔内科学会 専門医



粉末清涼飲料

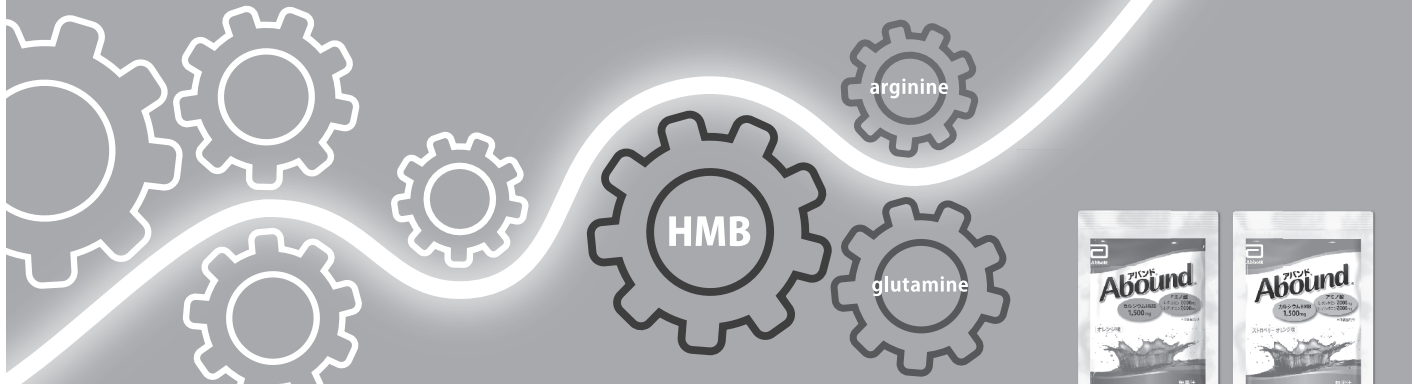
アバンド®

カルシウムHMB/L-グルタミン/L-アルギニン配合

アバンド®は「カルシウムHMB」と
「アミノ酸」をバランス良く配合。

身体に重要な、アミノ酸の摂取を。

医療機関や医療現場で使用されている栄養補助食品。



たんぱく質を構成するアミノ酸は、
カラダにとって重要な筋肉や皮膚を構成する成分です。



オレンジ味 ストロベリーオレンジ味

●内容量：1袋24g

●賞味期限：裏面に記載 ●原産国名：米国

輸入者
アボットジャパン合同会社
東京都港区三田三丁目5番27号
JP.2024.46277.ABO.1 2024年3月作成

[資料請求先] アボットジャパン合同会社 お客様相談室 フリーダイヤル

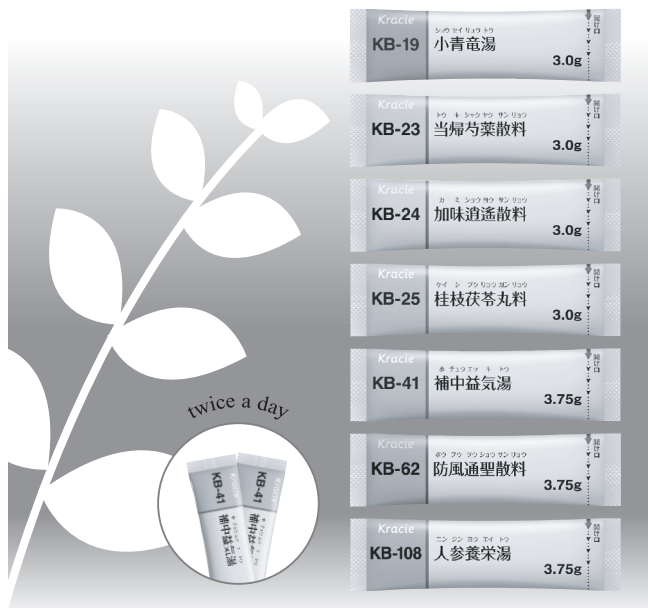
0120-964-930

本品は医薬品ではありません。たんぱく質摂取
制限のある方や高齢の方は、医師・管理栄養
士等の指導を受けることをおすすめします。

Kracie

twice or three times a day 選べるやさしさ

日本標準商品分類番号 875200
漢方製剤 薬価基準収載



医療用医薬品ウェブサイト 「漢・方・優・美」

www.kampoyubi.jp

スティックで、健やかな暮らしへ

クラシエ 薬品株式会社

〒108-8080 東京都港区海岸 3-20-20

[文献請求先] 医薬学術統括部 TEL 03 (5446) 3352 FAX 03 (5446) 3371

[製品情報お問合せ先] お客様相談センター TEL 03 (5446) 3334 FAX 03 (5446) 3374 〈受付時間〉 10:00 ~ 17:00 (土、日、祝日、弊社休業日を除く)

■「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。

2024年10月作成